

年度途中に開講するコース用参考問題 国語

1 次の傍線部の漢字の読みがなをひらがなで書きなさい。

(1) 柔和な表情 (2) ご意見を承る (3) 俊敏な行動をとる (4) 抑揚をつけて読む

(5) 気が紛れる

2 次の傍線部のひらがなを漢字で書きなさい。

(1) いつ終わるかけんとうもつかない (2) 地球おんだん化現象 (3) きちに富み、明朗な人柄

(4) けわしい山道を登る (5) 動物をしいくする (6) すなおにしたがう

(7) 雰囲気をやわらげる (8) 天気は朝からかいせいだった

(9) けが人をきゆうじょする (10) そつちよくに意見を述べる (11) 道か川にそう

3 次の漢字の「へん」をひらがなで答えなさい。

(1) 複 (2) 防 (3) 眼 (4) 坂 (5) 行

4 次の意味を表す四字熟語を語群から記号で選び、□に当てはまる漢字を答えよ。

(1) 物事の様子にさまざまな差異があること。

(2) あることに心を奪われて、自分を忘れること。

(3) もつてのほかの、まちがったこと。

(4) 古いことを学んで、新しい道理を発見すること。

語 群

ア	言語道□	エ	無我□中	キ	臨機応□
イ	□意周到	オ	温□知新	ク	意味深□
ウ	前代□聞	カ	□末転倒	ケ	千差□別

5 次の文を読んであとの問いに答えよ。

人が仕事をするのは「食べるため」というのが通り相場になっている。だから「□□」という言葉聞いただけで、何か重く感じるウンザリする人が少なくない。また「――」と聞くとパツと目を輝かす。仕事イコール苦、遊びイコール楽。だれの心にもそんな気持ちがある。子供時代は仕事のかわりが「勉強」だった。

(――)世の中には「仕事こそ最高に楽しい」という人が少なくないのである。これは昔からそうだった。哲人皇帝アウレリウスは『自省録』の中で「人生の幸福は仕事をする事だ」といい、有名な『幸福論』の著者ヒルティも「愉しさというのは仕事の最中にもっともわきやすい」と似たようなことをいつている。

仕事は人生の三分の一を占めている。あとの三分の一は睡眠だから、人生ですることの半分は仕事と思っている。もしそれがウンザリだったら、人生そのものがウンザリの連続である。人生を愉しくしようと思ったら、仕事を愉しくすることが絶対必要条件なのだ。

では仕事をどうやって愉しむか。絶対のコツを一つ伝授する。それは「とにかくやること」だ。前述のヒルティは「気が向かないなどといわずに、毎日一定時間を仕事に捧げてみよう」とすすめる。絶対そこから愉しみがみつかるというのである。

他人の仕事をたから見ていて「つまらない仕事をよくあきずにやれるな」と思うときがある。ところが当の本人はつまらなくないのだ。人間は心の底からイヤなことを継続してできない。継続している限り必ずそこに愉しみをみ出しているのである。無理やりでも見つけ出す。それにはやり続けることが必要なだけだ。

A 人間は習慣の動物であり、習慣は第二の天性といわれる。個人生活の九〇％以上は習慣の産物で、その内容で人生はほぼ決定してしまうというて過言ではない。食生活の習慣が健康から寿命までを決めるようなものである。

B 仕事もやり続けることで習慣になってしまうのがいい。習慣になると、まず否応の意識が薄れてくる。早起きの習慣もつらいのは最初だけで、慣れればそれが当たり前になる。そして次にいろいろな愉しみがわかってくる。

C 毎日八時に眠い目をこすって起きる人が恐れるのは、早朝五時起き睡眠のイメージである。想像の前で歩いて一歩も先へ進めない。だから「とにかくやること」が必要なのだ。そこには理屈も何も無い。「恐怖は逃げれば二倍になるが立ち向かえば半分になる」という。これは想像したものの変化をうまくいい当てている。

(川北義則 『人生の愉しみの見つけ方』より)

(1) □□に当てはまる語句を文中より漢字二字で答えよ。

(2) ――に当てはまる語句を文中より二字で答えよ。

(3) (――)に当てはまる語句を次の中から選び記号で答えよ。

イ よって ロ ところが ハ つまり ニ なぜなら

(4) 問題の中で次の文が抜けているが、A B Cのうちどこがもっとも適当か記号で答えよ。
壁になっているのは、その習慣がないときに想像するイメージなのである。